第 14 回　長野市活力ある学校づくり検討委員会　議事録（要旨）

【開催日時】

日　時　　平成 30 年6月 20 日(水)10 時 00 分～11 時 25 分

場　所　　長野市役所　第二庁舎　10 階　会議室 203

【出席者】

（委　員）

山沢委員長、風間委員、志川委員、髙橋委員、田川委員、西脇委員、藤澤委員、松岡委員、丸山委員、鷲澤委員

（長野市）

近藤教育長、松本教育次長、永井教育次長、樋口教育次長副任兼総務課長、上石学校教育課長、小林主幹兼小中高連携推進室長、石川主任指導主事、唐木主任指導主事、小川係長、宮川主査、中村指導主事、小澤指導主事、島田指導主事、深澤指導主事、中島指導主事、関指導主事、田中指導主事、清水指導主事、佐藤指導主事

【会議次第】

1　開　　会

2　あいさつ（教育長）

3　協議事項

(1)　パブリックコメントの実施結果（案）について

(2)　審議のまとめ（案）について

(3)　その他

4　そ の 他

5　閉　　会

【会議資料】

資料1　パブリックコメントの実施結果(案)

資料2　審議のまとめ(案)

【発言内容】

（委員長）

○　協議事項の第一、パブリックコメントの実施結果について、まずご協議いただく。「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方　審議のまとめ（案)」について市民の皆様に公表し、意見をいただき、その結果を事務局でまとめたものである。まず説明をいただき、委員の皆様には、事務局案の考え方についてご審議いただきたい。

―　事務局　資料　パブリックコメントの実施結果(案)について説明　―

（委員長）

○　114 件のご意見をいただいた。それを、資料１の１枚目にあるような形でまとめ、その説明をさせて

いただいた。審議のまとめ（案）を修正するという項目は一つだけということで、１ページに書いてある。資料２の 21 ページのところで、「幼稚園・保育所・認定こども園」という形で修正させていただく。その他の意見は大変貴重なものがあり、特に審議のまとめ（案）の修正には含まれないが、今後の取組の参考にするということを述べさせていただいている。一つの項目を精査するということもあるが、忌憚のない形でご発言いただきたいと思う。

○（資料１の）１枚目の裏、３番目の小学校高学年期の集団での学び、それに対応した形で、地域での小学校低・中学年での学び、また地域でどのような考え方で小・中学校での学びを支えていくか、あるいは希望していくかという３、４番のご意見が、今後「審議のまとめ（案）」を実施する場合には非常に重要になっていくと思う。３、４番あたりでご意見がおありだと思う。遠慮なくご発言をお願いしたい。

（委員）

○ パブリックコメントの意見をお聞きしたが、修正案については、この程度で良いと思う。事務局案の考え方も、このとおりであろうと思っているので、今のところ、これをこうという意見はない。

（委員）

○ ４ページの（２）（一番上）「学校の統廃合や小中一貫校の導入が展望されているということにさえ読み取れる」という意見に対する考え方で、「そういうことは考えていない」とはっきり否定することは無理なのか。

（教育長）

○ ご審議いただいてきた中で、小中一貫校を取り入れるとか統廃合するとかいうご意見は審議されていないという認識でいるので、この後どのようにしていくかという論議の中で、具体的にこういう案が地域や地元から上がってくることもありえると思っている。ここでは、一番は、子どもたちのためにご審議いただいたことを尊重している（多様性のある中での学び、地域に学校を残すという２つを同時に共有しているという考え）ことから、このことについては直接触れなくてもよいのではないかと考えるがいかがか。

（委員）

○ ２点お願いしたい。まず、修正するということに関わって、図の中での修正はされているが、「幼保園」という表記は文中には残っている。直さなくてよいのか。20 ページの３番の一番下、その一番下の段落、18 ページにも「幼保園」という表記が残っているが、統一したほうが良いのではないか。

○ 一番言いたかったところだが、新聞に記事が出たので、それに引っ張られたパブリックコメントが多いように感じた。長野市全体を見たとき、各地域、あるいは小・中学校が非常に多様である。長野市はおそらく日本全国、あるいは長野県全体の縮図といえるような教育環境を持っている。その中で、一律に学校像を描けるわけではないということを前提に、この議論は始まっているように思う。このまとめは視点・考え方であり、それを参考に各地域が主体性を持って子どもたちにとって望ましい教育環境について検討する必要があるということを述べている。統廃合ではない、小中の密接な連携も提案しているので、はっきり書いてあるところもあるが、明確にしておいた方が誤解を与えないのではないかと感じた。

（委員長）

○ 最初の意見については是非直していただきたい。

（事務局）

○ ６ページ（２）で初めて「幼保園」という表記を使っており、そこでは括弧書きで「幼保園」を定義しているが、（修正について）ご検討いただければと思う。図の方は触れるところがなかったので、（略さず）全体を書かせていただいた。

（委員長）

○ 文章の中でも「幼稚園・保育所・認定こども園」と全部書いてもいい。そのようにしたいと思う。

○　二つ目のご質問は、一番の本質、審議会の基本のところの話である。「はじめに」のところには書いてあり、読んでいくとそれぞれ出てくるが、やはり必要なところで明確に強調する文章を付け加える必要があるということだと思う。それでは、具体的にどの辺に記載したらよいか。最初に書いてあっても忘れてしまう。

（委員）
○　書くとすれば「おわりに」だと思った。「はじめに」で「学校の統廃合や規模適正化等配置計画の類ではない」と始まっている。書いてはあり読み取れるが、非常に多様な地域、小・中学校の教育環境があるという前提と、そのことで全市一律に学校像を描くことは難しいということを踏まえ、各地域の市民が関わって、その地域の学校像・教育環境を描いていく事がこれから大事であるという、ある意味これからの整備の道筋を示すということが「おわりに」の部分で必要ではないかと思う。

（委員長）
○　「おわりに」の最後の段落で、「子どもの保護者の声を重視しつつ、家庭、地域、学校、事業所など社会全体の協働により」と記載されている。この辺は各地域でいろいろ条件が変わったりするので、小・中学校の学びに対する地域の要望・考え方も変わってくるが、そういうところを、きちんと前向きな形で記載し、「はじめに」を受けて、いろいろ議論してきた中で、今後の方向性をもう少し明確に書いてもよいのではないかというご意見かと思う。

（教育長）
○　「おわりに」のまとめは大変悩んだところである。３段落読んでいただくと今のことが分かると思う。厳しい少子化の現状の中で、これから生きていく子どもたちのための学校づくりという点、それをどう表現したらよいかというのが難しいところで、委員の皆さんも「できる限り学校を残したい」という一言にその思いが入っていると思うが、その思いについてはいろいろな地域の実情がある。こちらで、このまとめで規定しすぎると、各地域で議論に入ったときに（影響を与えてしまう恐れがある。）方向性を規定しすぎていないかと少し懸念があったので、弱いと言われば弱い気もする。ただし、前提としては、これから生きていく子どもたちであり、しかもそこで生きていくとは限らない子どもたちである。

（委員長）
○　もう少し踏み込んでもいいかもしれない。特に「はじめに」の最後の段落と、「おわりに」の最後の段落が同じであるが、「おわりに」の方は、もう少し、こういうことが言いたいというニュアンスを入れることが必要ではないか。そうすれば明快になるのではないか。それぞれの地域でいろいろな考え方ができるということを示しておけばいいと思う。

（委員）
○　先ほど申したように、新聞の記事が出なければ、これで良かったと思う。これだけたくさんのパブリックコメントが寄せられているということは、関心が非常に高いということでもあると思う。最後のところに、委員長がおっしゃったように、ある程度これからどうするのかということが少し見えるようなまとめになるといいなと感じた。

（教育長）
○　なかなか方法論まで行かないが、先ほど申したように、これからの未来を生きる子どもたちのための「審議のまとめ」であるということをもう少し強調できると思う。それを踏まえて論議をしてほしい。ある程度はっきり申せば、個人的な意見だが、地域があって学校ができている。そこを是非考えてほしい。もし地域がなければ、人がいなければ学校ができなかったという経緯があるため、これから生きていく子どもたちがその地域で必ずしも生きていくわけではないということもある程度踏まえながら、「未来を生きる子どもたちにとっての」という程度の表現になると思うがいかがか。

（委員長）
○　教育長のお考えはよく分かる。その方向で、少し加筆も考えていただければと思う。

（委員）
○　事務局案も併せて公表される中で、例えば６ページなど、質問は微妙にそれぞれ違うものもある。「県を通じて国に要望してまいります。」という回答に、もう少し、人数や本質的なこともあるので、県を通じて国に何を要望していくのか、書いてあることをお願いするというだけの話なのか、国のどの部局で議論してどんな回答が得られるのか、回答があったというものもあるかもしれないし、要望しただけなのかなど、もう少しきめ細かく書いてあると、質問した人が分かりやすいと思う。「要望してまいります。」だけだと、肩透かしのような感じにならないか。

（教育長）
○　この辺は書くと量がとても増えてしまう。３月議会で国への教職員の定数改善を求める意見を市議会全員一致でいただいているので、その内容がほぼここに入ってくると思う。特別加配を進めてほしいなど、かなり大きな枠の意見なので、ここで表現できると思う。

（委員）
○　もう少し分かりやすいものになるということか。

（教育長）
○　意見書として議会でまとめていただいたので、より具体的になってくる。

（委員）
○　間に合うようであれば中身をも少し触れて、間に合わなければ議会で要望することになっているということもあるということ（が記載できればよい。）こちらではどうにもならないことだという雰囲気ではなく、それをもとに地域住民もできることがあるというニュアンスが伝わるものになるといい。

（委員）
○　教育予算の確保について県を通じて国へ要望するというのは、私も村で財政課長もやったが、難しい。特にこれは人件費の問題なので、あまり細かく書くと差し障りがあると思う。その辺は議会特別委員会と教育長の方でやっていただければと思う。特に学校については、学校数、学級数、児童生徒数などに基づき、地方交付税が交付されているので、あまり細かく触れると大変なことになると思う。

（委員）
○　３月に市議会で要望書を出したのか。

（教育長）
○　国に対して意見書を出していただいている。

（委員）
○　内容が決まっていれば、それを参考にある程度は書けるか。

（教育長）
○　（議会に）確認する。私も教育長会等に行き、長野市としてこういう意見書を出していただいているということで、定数改善等についての要望は盛り込んでいただけるようにお願いしているところである。

（委員長）
○　議論した内容が、事務局の回答案で全て説明されているわけではないが、考え方としては、事務局と審議会との間で意見の差異は認めにくい状況ではないかと思う。このパブリックコメント実施結果をもとにして意見が出てくる可能性もあるが、事務局案の説明で、今の追加等によって、市民に納得いただける実施結果を公表できるのではないかと思うがいかがか。簡単に申し上げると、資料１の実施結果を審議会として認めるということでよろしいか。いくつか修正があったので、私にお任せして

いただくということでよろしいか。

－異議なし－

○　感謝申し上げる。大きな修正、特に委員会を来週開くということはないようなので、本日の審議会でパブリックコメントの実施結果をお認めいただいたということになる。
次に、それを受けて審議のまとめ（案）であるが、これについて事務局から説明をいただきたい。

―　事務局　資料　審議のまとめ(案)について説明　―

（委員長）
○　「おわりに」の最終段落を受けた形で、教育長のおっしゃったイメージの言葉を少し入れていきたい。その辺は私にお任せいただければ、きちんとチェックしたいと思うがよろしいか。

－異議なし－

○　審議のまとめを改めて見て、ここはというご意見があればどうぞ。
○　「審議のまとめ」は公表の時はカラーで作成するのか。

（教育長）
○　検討させていただきたい。

（委員長）
○　図面はカラーがよい。
○　「幼保園」の表記の修正と、「おわりに」のところに本審議会の思いを少し入れていただく文章にするということで、この審議のまとめ（案）についてご了解を賜りたいと思うがよろしいか。

－異議なし－

○　大きな修正はないということで、軽微な修正は私にお任せいただくということで、27 日の検討委員会開催はないということになる。27 日に私が答申することになると思うが、その辺は事務局から説明があると思う。

―　事務局　答申について説明　―

（委員長）
○　本日の審議会はこれで終了とさせていただく。皆様のご協力のおかげで審議をまとめることができ、感謝申し上げる。皆様のおかげで、内容の濃い、そして幅の広い議論ができ、大変うれしく思う。第１回から様々な審議をしてまいり、昨年は、寒い中（小・中学校を）視察いただいたり、暑い時期には東京学芸大学の佐々木副学長に教育組織運営の画期的なお話をお聞きしたり、皆さん勉強されてその成果がこの「審議まとめ」に出たと思う。
○　長野市の教育環境は日本の教育の縮図のような形で、ある意味では少子化・人口減少の影響を早く受けていると思う。私の中でも多様化したものをぜひ残したいという思いがあった。教育内容も決して低いわけではなく高いレベルである。信州教育というと古いかもしれないが、伝統を持って行われている中で、教育に関する問題の顕在化も早いと思って見ていた。信州は早くから自分たちの子どもは自分たちできちんと育てようという思いが非常に強い国であった。明治時代の前から集団教育が進んできて、それが日本全体の中で画一的な国家の関与が強くなってきて、戦後、民主化した。そういう中で、かなり信州は先端を走っているが、今度、ある意味では明治時代の前に戻るという（自分の地域で考えなければならない）ことも起きてきたし、更に都市化、大きな現代の中で社会構造のひずみを受けたような学びがディスカバーされてきた時代である。やはりそこは長野市として解決しなければならない。ある意味では戻り、ある意味で最先端の話をしなければならない。長野市の学校教育は

そう意味でも多様化している。将来の子どもにとって望ましいことを議論するのは難しかったが、一つのまとめが（こういう風に考えてくださいということが）提案できるのは嬉しい。

（教育長）

○ いま、皆さんのご意見や長野県の現状、思いを語っていただいた。本当に難しい時代に来ていると私も感じている。できたら、これを契機に、新しい形の学校が開かれていくと違うと思う。確実に言えるのは、今までは画一性・統一性を求めた時代だったが、今は多様性・一人一人に応じて、という時代に変わって来たということ。それをどのように集団の中でやっていくのかが難しいと思う。人間は社会の中で育っていくということを審議の中で私も感じた。14 回（の審議を経て）、答申をまとめていただき、本当に感謝している。来週 27 日、答申をいただけるように事務局も頑張る所存である。パブリックコメントについてもご意見をいただいたが、許す範囲内で、できるだけ分かりやすい形でお答えできるように修正していきたい。冒頭のあいさつで申し上げたが、答申をいただけることになり改めて感謝申し上げる。今後市議会の「小・中学校の在り方調査研究特別委員会」で報告させていただき、その調査結果をいただき、また皆さんと共々考えていく所存である。今後もそれぞれの立場でご意見をいただければと思っているので、よろしくお願いしたい。

以上